



目次

巻頭言	1
全連退設立五十周年 記念式典報告	1
東陸地区退職校長会 協議会報告	1
県退職校長会「研修会」報告	1
地区退職校長会だより	2
生き生きライフ	2・3・4
会員交流広場	4

題字・切り絵

25年度入会

古池拓雄 (元 稲沢・稲沢西中)

十年を思う

副会長

柴田 規矩司



退職後十年。今はこれからのことを考えている。

昨年の秋、現職時代に海外教育視察をした仲間が天童市に集い山寺の散策をした。

十年の間に、風貌も変わり多くの人が重い病を患い、治療やリハビリを余儀なくされている。しかし、一様に明るく、これから挑戦したいことを生き生きと語る。退職当初は、揃って威厳に満ちあふれていたが、今は、弱みを見せ合いながら人生を楽しむ老人である。皆、健康の大切さを痛感している。

先日、「一無、二少、三多」という言葉を聞いた。日本生活習慣病予防協会が提唱していることで、「一無は禁煙、二少は少食と少酒、三多は多動、多休、多接で、運動や休養、そして多くの人・事・物に接すること」だそうだ。ど

れも納得するところだが、事や物との接し方に個性が出てくるのだと思う。

私には、子どもと同じだと勧められて始めたさつき盆栽の趣味がある。これからも楽しんでいこうと思うが、好奇心はまだ健在なので、面白いことがあれば挑戦したい。

今考えているのは、老爺柿の交配である。中国伝来のこの樹は、実の色、形に抜群の多様性がある。十年來の実生栽培の結果、個性的な実が見つかったのだ、人工受粉ですらに魅力的な実に改良しようというものである。

一本の樹が新たな命を世に出すまで、この先十年間を付き合うのは面白いし、自身への励ましにもなるだろう。

全国連合退職校長会の総会で、これから大切なことは、「きょういく」と「きょうよう」ですという挨拶があった。「今日、行くところがある」「今日、用事がある」ということ。これが、元氣のもとのことだが、面白く楽しいことであればなおさら元氣が出ると思う。

皆さんもよき関わりを通して健康で充実した日々をお過ごしください。

全国連合退職校長会設立五十周年 記念式典報告

平成二十七年十月十五日、アルカディア市ヶ谷において式典ならびに祝賀会が開催され、本県から中川正明会長が参加した。

式典では国歌斉唱、全連退綱領唱和に続き戸張敦雄会長の挨拶、藤原文科大臣官房審議官の祝辞があり、招待された功労者へ表彰状が手渡され、これまでの功績をたたえた。

祝宴に入る前のアトラクションでは琴の増崎喜子氏、尺八の渡辺元子氏による「琴と尺八の合奏」が行われ、更に祝賀モードを盛り上げた。併せて「記念誌」と記念図書「未来を拓く学校の力」が紹介された。記念誌は各県の活動をまとめ、記念図書は特徴ある各県の教育活動を紹介している。愛知からは師勝中学校の修学旅行が取り上げられている。図書は全国の書店で扱っている。

東海北陸地区退職校長会 協議会 報告

十一月五・六日、静岡市で東海北陸地区協議会が開催され、本県からは中川正明会長と柴田規矩司・加藤正躬副会

長の三名が参加した。

協議では、昨年から懸案事項である「東海北陸地区情報誌」の発行について各県の実情を踏まえ熱心に話し合われた。一部、厳しい意見もあったが、東陸協議会の開催県を当番県とし、年一回、東陸協議会の要約した記事を中心に、来年度から発行することと一致した。また、教委や現職校長会との連携等、各県の特徴ある活動を交流した。

県退職校長会

「研修会」報告

八月四日、高田和明義務教育課長を講師に、「義務教育における今日的課題」という演題で研修会を行いました。

家庭と学校とが協働したいじめの未然防止への取り組み、定住化・多国籍化・散在化が進む外国人児童生徒教育、次期学習指導要領をふまえた英語指導力の向上等、豊富な資料を基にわかりやすく説明していただいた。また、性同一性障害に対応をした人権教育、高等学校将来ビジョンへつなげるキャリア教育等の、最新の情報も提供していただいた。最後に、中川会長がお礼とともに、「退職校長会の立場から応援していきたい」と語られ、研修会は終了しました。

地区退職校長会だより

県内の各地区退職校長会からたよりをいただきました。互いの理解と親睦を深めるため、順次紹介しています。

一宮市退職校長会

一宮市退職校長会は、平成十二年に設立され、会員は一宮市立小中学校の校長退職者とし、現在会員数は二百四十人となっています。

学校数が、平成十七年度から尾西市と木曽川町との合併により六十一校となりました。会費を徴収することはありません。

会は、親睦と情報交換を目的としており、年に一回の総会と懇親会を持っています。その時に必要な経費は当然参加者負担ということで、年度末の暖かくなった三月の第一日曜日に開催することになっています。

なお、会員の年齢差が大きくなったので、本年度から名札を作成し、それを胸に着用することにしました。

総会では、年度内の物故者に黙祷を捧げ、故人の冥福を祈るとともに、遺徳を偲ぶことにしております。そのあと議事に入り、ごく一般的なやり方で総会は終わります。

懇親会は、本会の一歩の目

的でもありますので、盛大にやります。会員一同、相互の親睦を深め、楽しいひとときを過ごしています。

この準備、進行は、退職二年目の会員がすることになっており、その中から数名の世話係を委嘱してやってもらっています。毎年、用意周到な準備が進められています。

以上が一宮市退職校長会の現状と様子ですが、たいしたことをしていないわけでもありませんので、他地区の様子を知りたいところがあります。

(3年度入会 青山卓雄)

豊橋市退職校長会

豊橋市退職校長会は、豊橋市立小中学校七十四校で校長として退職した方で組織し、現在、会員数三百五十三名となっています。

毎年、十一月の第三金曜日に懇親会を開いています。今年度の会は、新入会員十四名を迎え、七十二名の参加で去る十一月二十日十八時よりホテルアークリッシュ豊橋で開催しました。

会の幹

事は、例年前年度の新人会員の務め、当日までの運営から懇親会の司会、進行を受け持ちます。会は、まずこの一年の物故者十二名の冥福を祈り黙祷を捧げました。

芳賀会長からは、健康で過ごすための秘訣についてお話があり、その中で「多くの人と接することの大切さ」を話されました。また、海外視察中の教育長からのお願いの伝言もあり「格差社会が進んでいる今、恵まれない子どもたちの支援に地域ボランティアとして先生方の力を貸して欲しい。」という依頼と相まって意義のあるお話となりました。

懇親会では、先輩後輩の縦のつながりや、同期の横のつながりを生かし、和やかな雰囲気の中、楽しいひと時を過ごすことができました。そして仲間を誘い合つての再会を誓い合い、会を閉じることができました。

(22年度入会 鈴木清次)

「健康寿命」がきっかけのマイライフ方針変更

21年度入会 二宮 立美
(元 大府・大府西中)

第二の仕事を終え、耕す田畑がないのに「晴耕雨読」にあこがれ、実行しようと思うわくわくしていた頃である。「健康寿命とは、健康上の問題がない状態で日常生活をおくれる期間のこと。日本人男性で平均71歳！」と聞いた時の衝撃は大きかった。残りわずかである。急遽方針変更。

二台あった自家用車は一台にし、自転車を購入。図書館やスーパー、コンビニ等には自転車で行くことにした。

ウォーキングツアーにも申し込んだ。まず、富士山裾野一周は現在進行中である。倉庫で眠っていたノルディックウォーキングのポールが役に立っている。

総合型スポーツクラブの理事長もバトンタッチと考えていたが、新たに週一回自ら指導する教室を始め、受講者とともに汗を流している。

「健康寿命」がきっかけのマイライフ方針変更。健康寿命を縮める第一要因は「運動器の障害」である。膝や腰は既に十分劣化している。若い頃のように使い続ければ確実に破壊される。周りの筋肉を年齢相応に鍛えるだけでよい。だから、雨の日まで運動しない。本を読む。自転車は夜乗らない。転んだら即寿命切れだから。階段は、登りは自分の足で、下りはエスカレーターの世話になる。

注意していることがある。健康寿命を縮める第一要因は「運動器の障害」である。膝や腰は既に十分劣化している。若い頃のように使い続ければ確実に破壊される。周りの筋肉を年齢相応に鍛えるだけでよい。だから、雨の日まで運動しない。本を読む。自転車は夜乗らない。転んだら即寿命切れだから。階段は、登りは自分の足で、下りはエスカレーターの世話になる。

模型屋のおやじ

22年度入会 中川 克夫
(元 新城・東郷中)

「とうとうやってしまいましたがねえ」とは、私の夢を直近で語った友人の言葉。

「模型屋のおやじになって『聞いてみやーち』を聞きながら店番をする」これが私の夢でした。模型作りを始めた



のは小学校3年頃、飽き性の私が今まで続けてきた模型作り。いつしか店をやりたいと思っていたけれど、残された人生も二十年は保証できない。許可してくれた家族に感謝しつつ夢の実現に取りかかって昨年4月に開店した。

三十坪弱ながら四つの部屋に分かれた結構広い店は、店舗付き住宅なので住む事もできる。マニアックな仲間が集まり始め、喫茶コーナーで模型談議も始まる。プラモデルはファンが減り、ガンダムやフィギアに押されているけれど、スケールモデル愛好者はまだまだ存在する。そんな人たちが集まってくると本当にうれしい。

店は、プラモデルのほか、古本、ミニカー、中古カメラ、モデルガンなどのホビー商品もあり、ファンも喜んでいて、皆さん、遊びに来てください。



HP: (http://nakagawa-teic.wix.com)

スローライフ満喫

23年度入会 今井 信幸
(元 東海・大田小)

自然の中でゆったりとした時を過ごしたい。長年抱き続けたその夢を叶えることができ、妻とともにスローライフを楽しんでいる。真冬には氷点下十度を超えることも当たり前の地だが、そんな夜こそ満天の星が夜空で一斉に瞬く、感動的なシーンに出会うことができる。冷えた体を優しく暖めてくれる薪ストーブの炎もまた格別である。

燃やす

薪は造成時に切り倒した、樹高十数メートルのカラマツの太木であるが、それを薪として使えるようにするまでが苦労の連続であった。



<冬の薪小屋>

「そんなへつぱり腰で木は切れねーぞ」チェーンソー販売店の親父さんから頂戴したきつい言葉を励みに、習うより慣れろを実践する。カラマツを四十センチに玉切りし、割れが入るまで野積みにして

おくのだが、これが結構重労働でまさに体力勝負である。あれこれネットで調べ、これだと思った斧を購入して薪割りの準備が完了。玉に入った割れの頃合いを見ていよいよ薪割りのスタート。縦目のカラマツは比較的割り易い。

とはいえ、樹径が四十センチもあるとかなりしんどいが、スパツと割れた時の爽快感に嵌まってしまふ。薪小屋で一年ほど乾燥させると完成。手塩にかけた薪の炎を眺めながら飲む酒がじつに美味い。

遙かウナラスカへ

24年度入会 中島恵美子
(元 名古屋・榎小)

アラスカのウナラスカ島。息子一家が仕事の関係で住んでいる。現地の写真をメールでよく送ってくれる。大空を舞う白頭鷲、入り江で泳ぐクジラ、いつか訪れてみたいと思っていたが、この夏、行くことにした。

さあ、行くぞ！準備だ。しかし、である。ツアー旅行以外経験したことがない私たち夫婦にとって初めてのことはかなりだった。それでも何とか航空券を手配することができ、行程表も完成。準備が整った。



ウナラスカ島の丘より

だが、出発が近づくにつれ、私の心配性が頭を持ち上げ始めた。「空港で、いろいろ英語で聞かれたらどうしよう」「プロペラ機だから天候不順の時は飛ばないことがよくあるというし...」次から次へと不安が押し寄せてきた。

そんな不安をいっぱい抱え、セントレアから出発。羽田からシアトル、アンカレッジからダッチハーバーへ、飛行機を乗り継ぐたびに不安が消えていった。さらに、航空会社のカウンターを間違えれば近くにいた人に案内され、ホテルへの行き方が分からなければ身振り手振りで教えてもらい、気持ち軽くなっていった。到着した頃には、不安が少しずつ自信に変わっていた。そして、不安がる自分の姿も旅の思い出の一つになった。よし、また行くぞ！自分の力を信じてチャレンジだ。

探鳥会

25年度入会 尾崎 啓子
(元 西尾・中畑小)

去年の一月から野鳥の会に入会する。私は、鳥について全くの素人である。入会のきっかけは、庭でジョウビタキと出会ったことだった。その姿が愛らしく忘れられなかった。

私の所属している野鳥の会は毎月第一土曜日を定例の探鳥会としている。場所は「西尾市いきものふれあいの里」である。

六月の探鳥会の時のこと。私は、年長の内孫を連れて「いきものふれあいの里」に出かけていった。丁度、ケリが畑で抱卵している時期だった。親鳥が交代で卵を抱いていたのだろう。そのとき、突



12月の探鳥会・小草池にて

然、カラスが卵を狙って襲いかかってきた。ケリのけたたましい声。まず、親鳥の一羽がカラスに突進していった。すると、同時に五、六羽のケリがカラスに向っていったのだ。その防衛は、四方からカラスを囲むものだった。ケリはチームプレイでカラスを追い払おうとしたのだ。カラスは執拗に畑の卵を狙っていたが、ついに諦めた。すごいドラマを見させてもらった。

二人分の生き生きライフ

26年度入会 浅井 孝一
(元 名古屋・上杜小)

退職二年目。科学館の調査員と、その休館日に大学で理科教育の非常勤講師をしています。子どもの頃から理科が大好きだった私にとって、とても楽しく有意義な毎日です。孫たちと遊ぶことと、放送大学の科学や教育に関する番組を視聴することが、帰宅後の日課となっています。

そして、休みの日には、国内外を精力的に旅しています。十月には、黄葉のアドリア海

東岸の国々を訪れました。石灰岩が形づくる美しい大自然と、歴史の重みを感じる中世の町並みとを堪能しました。

欧州最大のポストイナ鍾乳洞では、トロツコに乗って洞内を巡りました。この地方の方言を、ドイツ語ではKarlと言います。カルスト地形の語源です。思いがけず、知的好奇心をくすぐられました。

この地を旅の目的地に選んだのは、高校の同級生と一緒に教職に就き定年退職一年前に他界した妻、佐知子が行きたがっていた所の一つであったからです。私たち二人を知る方々から「第二の人生を元氣一杯に過ごすことが、何よりの供養ですよ」と声をかけていただいています。この原稿をかきながら『二人分の生き生きライフ』を心に誓っている私です。



コトルの自然と文化歴史地区
(モンテネグロの世界遺産)

会員交流広場

後立山連峰の夜明け

25年度入会 森岡 知彦
(元 名古屋・笈瀬中)



室堂からアイゼンを付け剣御前小舎へ。厳寒の早朝、待つこと一時間、オレンジ色に染まる荘厳な夜明けに夢中でシャッターを切りました。

バラ星雲

26年度入会 藤井 哲也
(元 岡崎・美合小)

満天の星空を求めて、高山市莊川町へ。仲間と共同で運営する天体観測所では、別世界の一夜を過ごすことができます。

バラ星雲は、写真で撮らなければわからない。不思議な魅力ある星雲である。



「伊賀焼・蹲(うずくまる)」

25年度入会 上赤 正文
(元 あま市・美和中)

登り窯の中で炎の洗礼を受けて、窯出しの期待に迎えてくれた一品かな？。自然の中で土と遊ぶ日々を楽しんでいます。

会報を読んだ感想・意見や会員の皆様の作品(絵画・書・写真・短歌・俳句等)をぜひお寄せください。詳細は、事務局まで。

訃報 (内はご逝去された日)

木下 由正先生 (二七・九・一三)

元 名古屋市中区立葵小学校

佐藤 輝雄先生 (二七・十一・二五)

元 愛西市立佐屋中学校

ご逝去されました先生方のご冥福をお祈りいたします。なお、本会より弔電にて弔意を表させていただきます。

平成二十七年六月十七日から、十二月二十五日までにご逝去され、事務局に報告があった七年会員の方を掲載しました。

事務局だより

ご多用の中を、原稿の執筆にご協力いただきました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。皆様のご協力により、予定どおり会報を発行することができました。

これからも、会員の皆様に喜んでいただける会報になるよう、努めてまいります。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

愛知県退職校長会事務局

名古屋市中区新栄一丁目

四九番一〇号

愛知県教育会館六階

愛知県小中学校長会事務局内

電 〇五二・二六・一八〇七

FAX 〇五二・二六・一八〇七

E-mail ai-kyocho@axel.ocn.ne.jp